

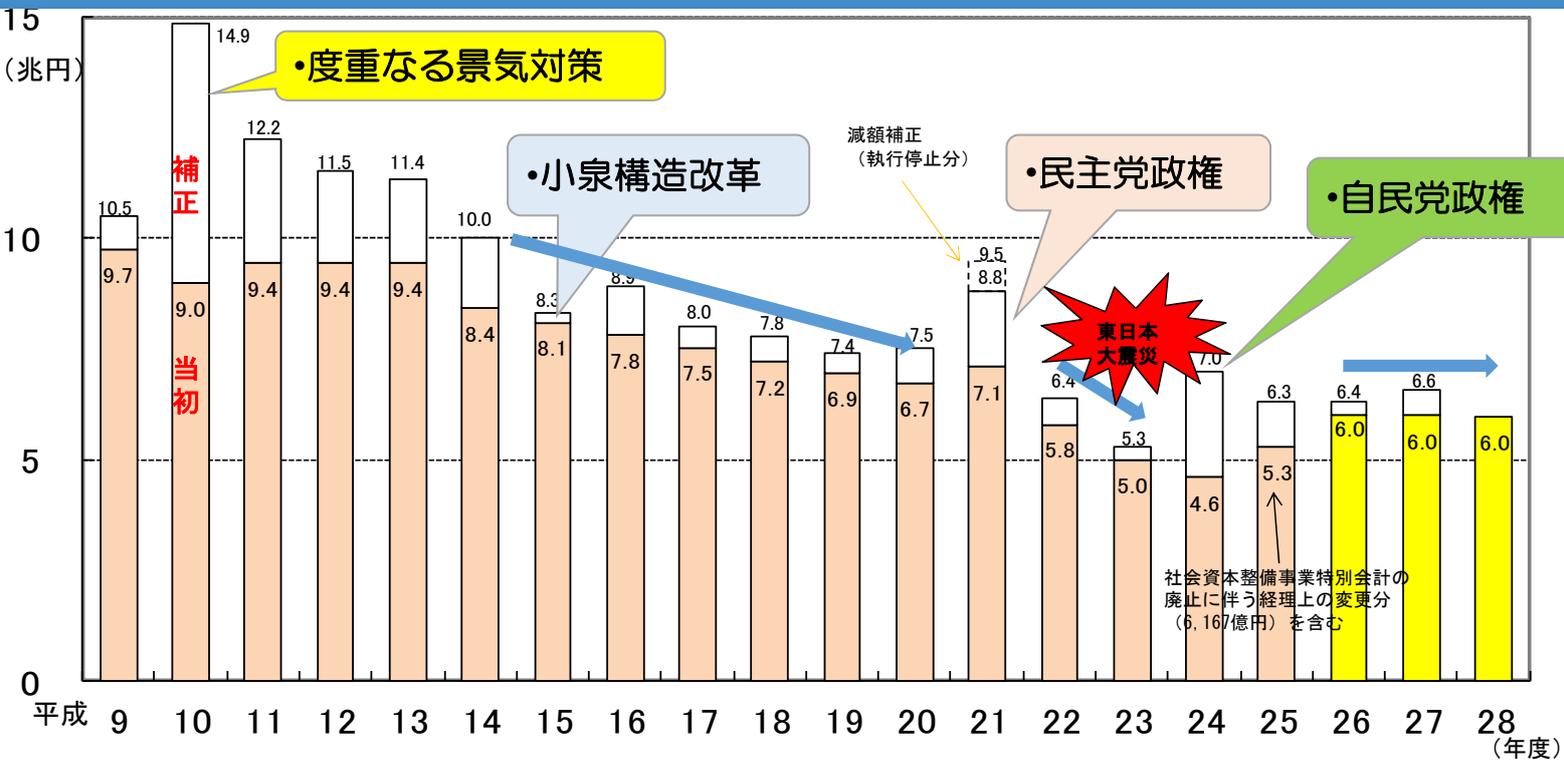
「地域建設産業活性化」等に関する意見交換会

2017年3月8日(水)

北海道土木技術会
建設マネジメント研究委員会
幹事長 倉内 公嘉

1

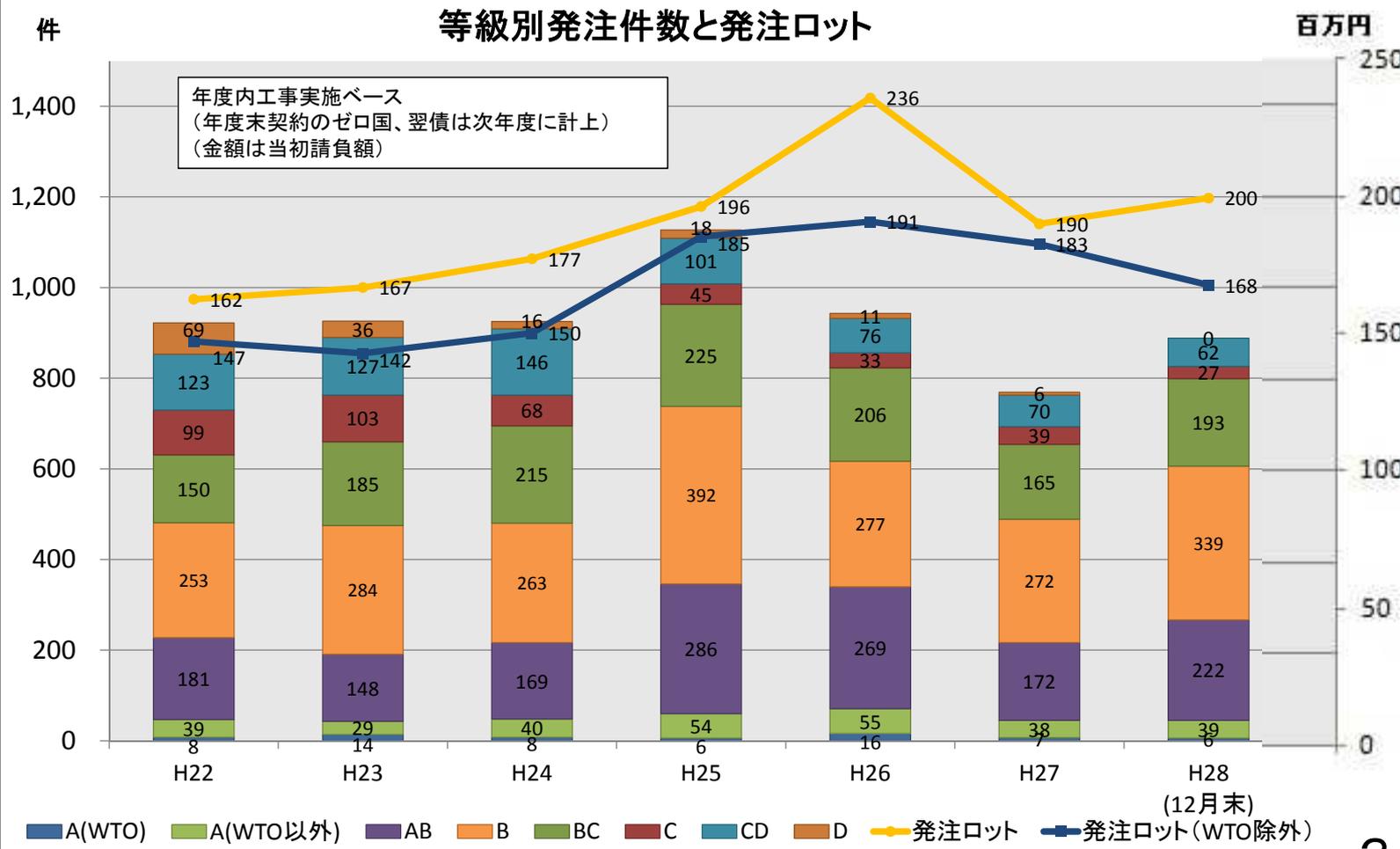
公共事業関係費の推移(政府全体)



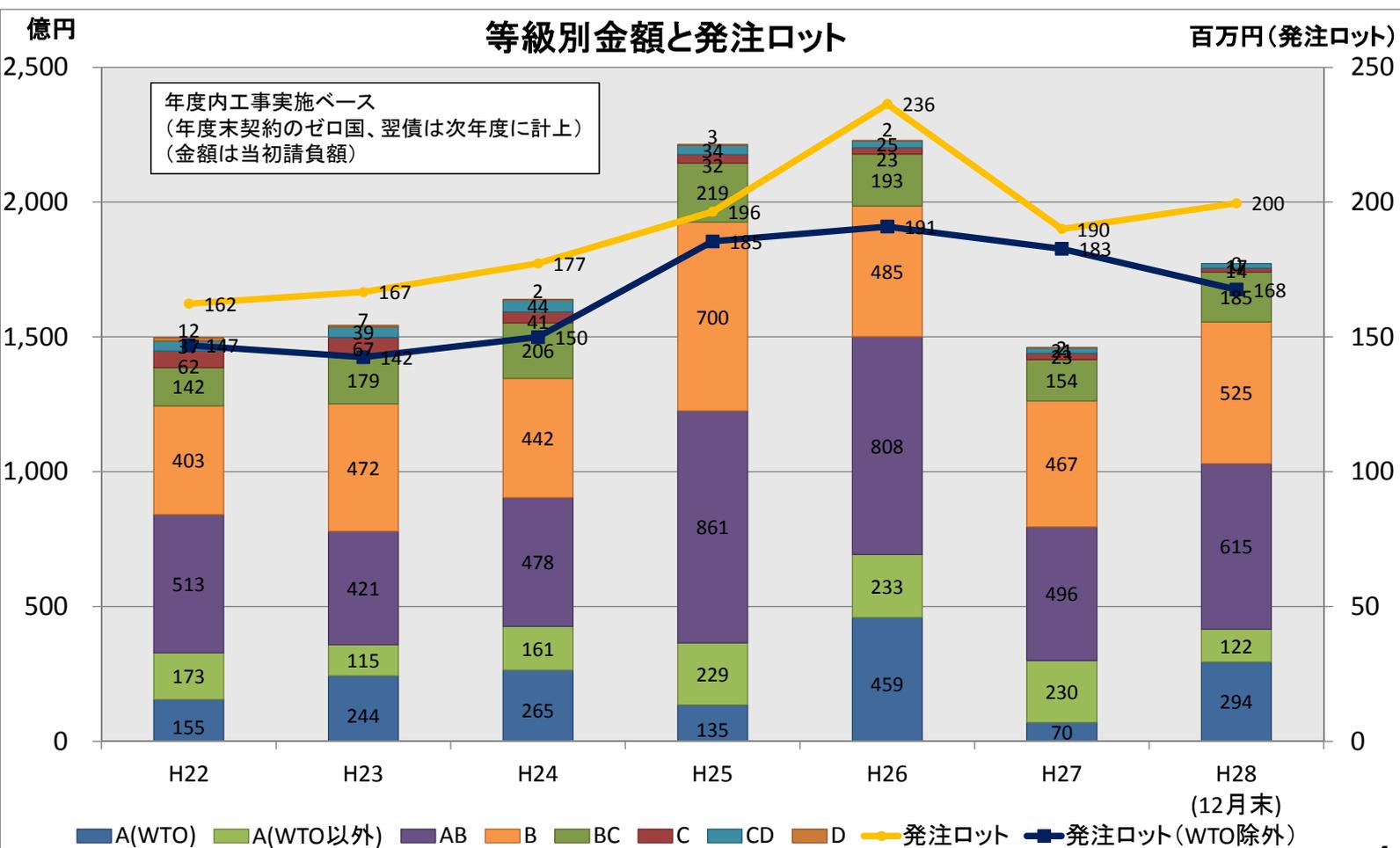
※本表は、予算ベースである。
 ※平成21年度は、平成20年度で特別会計に直入されていた「地方道路整備臨時交付金」相当額(0.7兆円)が一般会計上に切り替わったため、見かけ上は前年度よりも増加(+5.0%)しているが、この特殊要因を除けば6.4兆円(▲5.2%)である。
 ※平成23年度及び平成24年度については同年度に地域自主戦略交付金へ移行した額を含まない。
 ※平成25年度は東日本大震災復興特別会計繰入れ(356億円)及び国有林野特別会計の一般会計化に伴い計上されることとなった直轄事業負担金(29億円)を含む。また、これら及び地域自主戦略交付金の廃止という特殊要因を考慮すれば、対前年度+182億円(+0.3%)である。
 ※平成23～28年度において、東日本大震災の被災地の復旧・復興や全国的な防災・減災等のための公共事業関係予算を計上しており、その額は以下の通りである。
 H23一次補正:1.2兆円、H23三次補正:1.3兆円、H24当初:0.7兆円、H24一次補正:0.01兆円、H25当初:0.8兆円、H25一次補正:0.1兆円、H26当初:0.9兆円、H26補正:0.002兆円、H27当初:1.0兆円、H28当初:0.9兆円(平成23年度3次補正までは一般会計ベース、平成24年度当初以降は東日本大震災復興特別会計ベース。また、このほか東日本大震災復興交付金がある。)
 ※平成26年度については、社会資本整備事業特別会計の廃止に伴う経理上の変更分(これまで同特別会計に計上されていた地方公共団体の直轄事業負担金等を一般会計に計上)を除いた額(5.4兆円)と、前年度(東日本大震災復興特別会計繰入れ(356億円)を除く。)を比較すると、前年度比+1,022億円(+1.9%)である。なお、消費税率引き上げの影響を除けば、ほぼ横ばいの水準である。

2

等級別発注状況(一般土木) (実施ベース 件数)



等級別発注状況(一般土木) (実施ベース 金額)

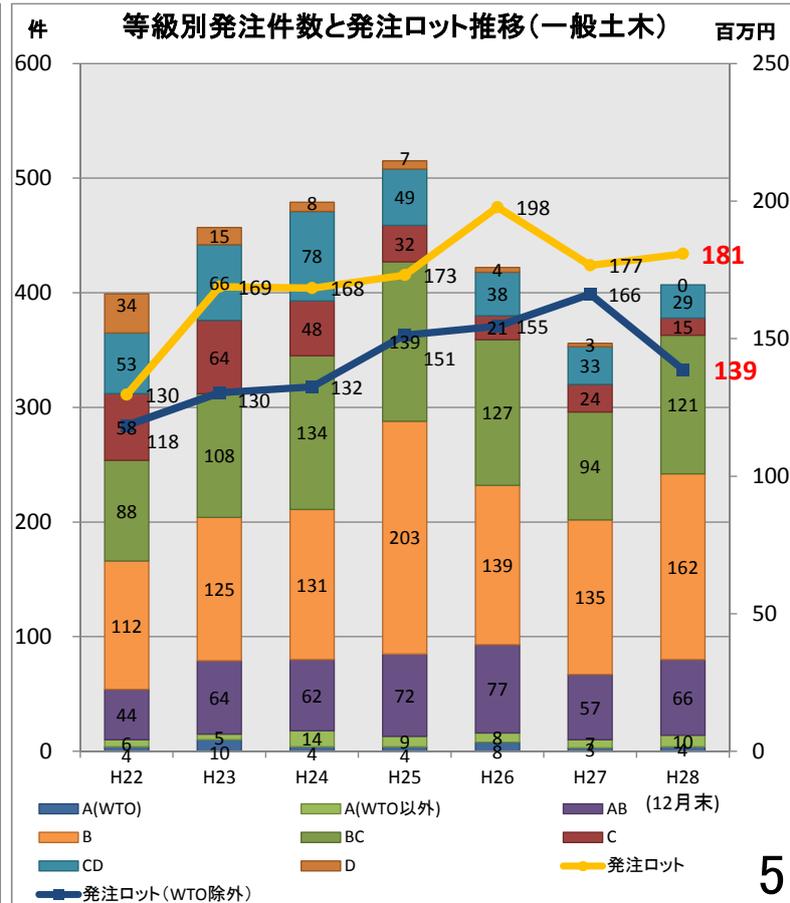
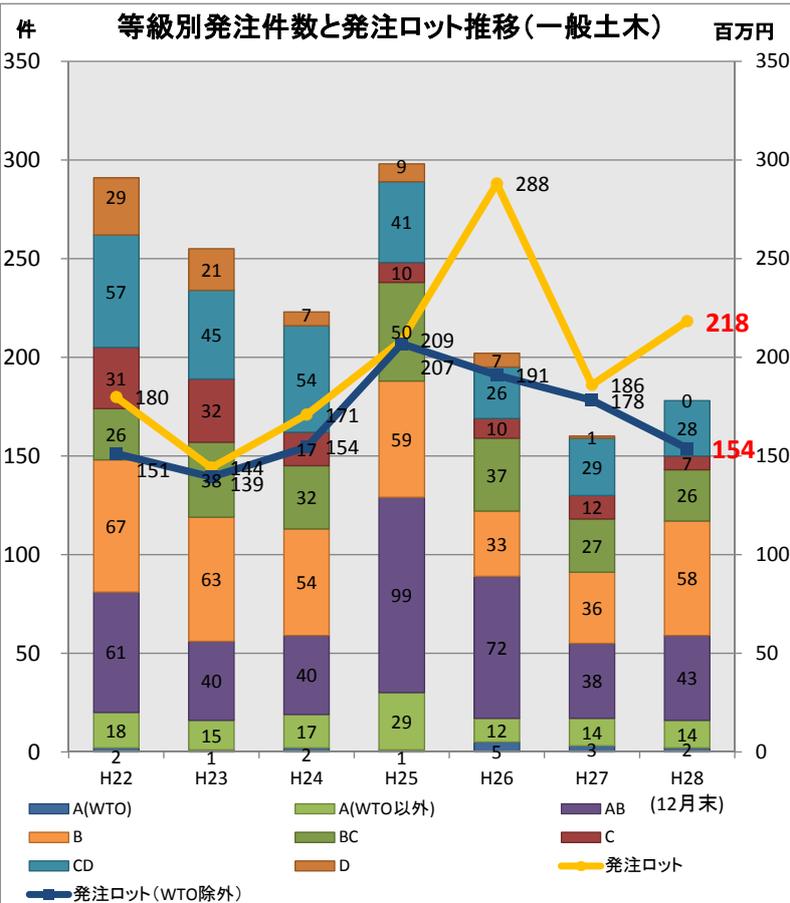


等級別発注状況(一般土木) (部門別 件数)

【河川部門】

年度内工事実施ベース
(年度末契約のゼロ国、翌債は次年度に計上)
(金額は当初請負額)

【道路部門】

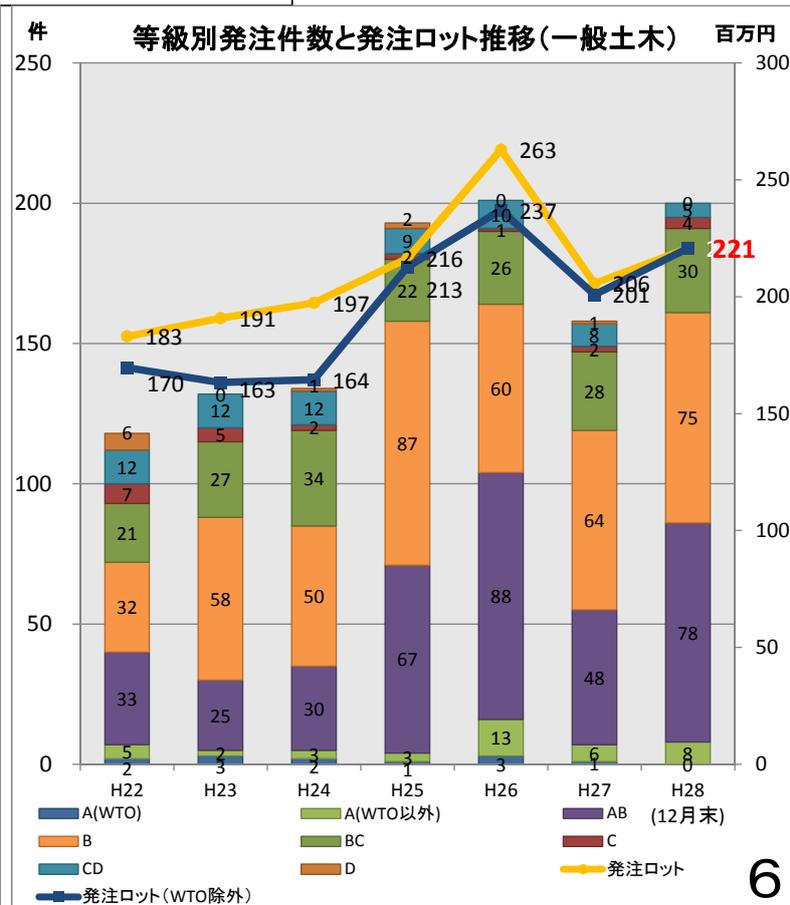
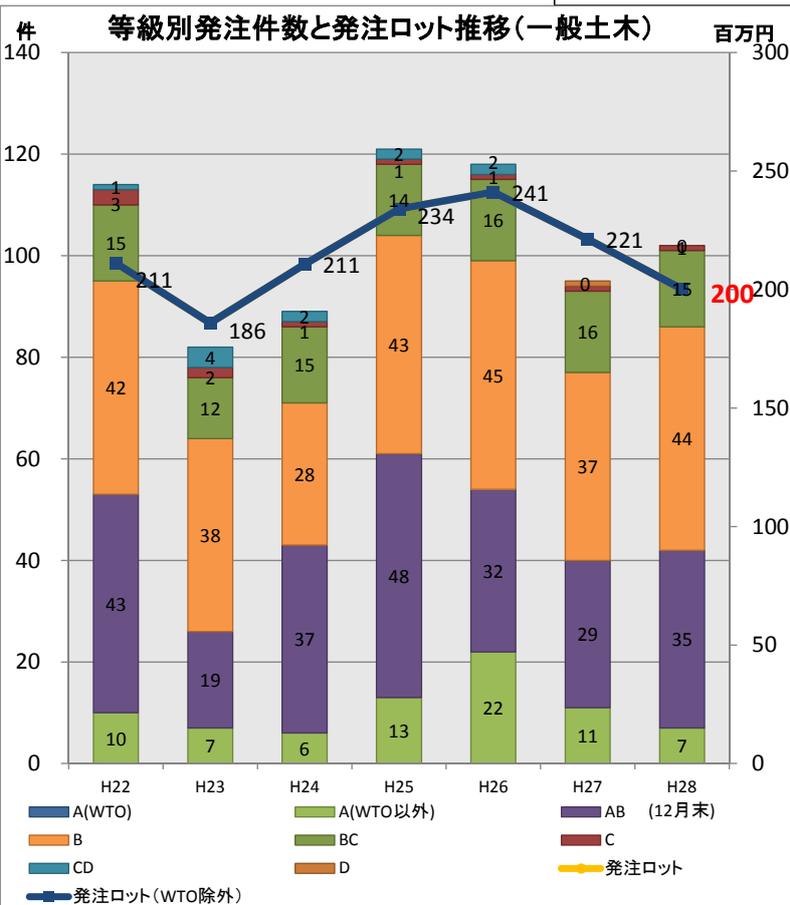


等級別発注状況(一般土木) (部門別 件数)

【港・空・漁部門】

年度内工事実施ベース
(年度末契約のゼロ国、翌債は次年度に計上)
(金額は当初請負額)

【農業部門】



平成28年度 取組予定及び結果一覧(1/2)

担当	実施日	名称	場所	職員(予定)	自治体等(予定)	職員(実績)	自治体等(実績)	合計
総務課・広報官・地対室	4/19	小樽開発建設部 事業説明会	本部 第1会議室	未定	未定	62名	—	62名
施設整備課	6/1	災害対策用機械指揮官操作講習 会	俱知安開発事務所 蘭 越分庁舎	未定	未定	7名	—	7名
防災対策官	6/7	熊本地震TEC-FOCE隊員からの報 告会	本部第1会議室	未定	未定	78名	—	78名
小樽港湾事務所	6/14-6/16	石狩湾新港みなと見学会	石狩湾新港	36名	200名	延べ37名	404名	441名
総務課	6/22	現場見学会(漁港)	岩内漁港・寿都漁港			26名	—	26名
小樽港湾事務所	7/6	岩内港みなと見学会	岩内港	8名	80名	11名	99名	110名
総務課	7/20	現場見学会(農業)	後志中部農業開発事業 所・ニセコ町	未定	未定	17名	—	17名
小樽道路事務所	7/20	道路維持・除雪機械見学会	小樽道路事務所	—	50名程度	16名	小樽市立長 橋小学校 2年生	71名 (生徒52名) (先生3名)
技術検査官	7/26-7/27	若手技術職員育成メインプログラム (第1回)	岩内町ほか	未定	未定	26名	—	26名
総務課	8/1	現場見学会(河川)	蘭越町	未定	未定	11名	—	11名
総務課	8/5	現場見学会(港湾・漁港)	小樽港	未定	未定	23名	—	23名
技術管理課	8/25	小樽工業高等学校 現場見学会	小樽市、余市町、積丹 町	未定	未定	6名	小樽工業高 等学校建築 科1年生	49名 (生徒40名) (教諭3名)
施設整備課・防災対 策官	5/26,6/17 7/12~/13 8/26	災害対策用機械操作訓練	蘭越町尻別川 旧蘭越1号樋門	未定	未定	延べ24名	延べ92名	延べ116名
総務課	9/30	現場見学会(道路)	小樽市・余市町	未定	未定	17名	—	17名
工務課・道路防災推 進官	10/18	道路防災エキスパート連携会議	本部第1会議室	20名程度	10名程度	25名	20名	45名
工務課・道路防災推 進官	10/19	自治体向け橋梁点検講習会	赤井川村	10名程度	25名程度	8名	32名	40名

7

平成28年度 取組予定及び結果一覧(2/2)

担当	実施日	名称	場所	職員(予定)	自治体等(予定)	職員(実績)	自治体等(実績)	合計
小樽港湾事務所	7/7, 7/15, 7/28, 10/28	港湾管理者との共同点検	小樽港、石狩湾新港、岩 内港、余市港	2名	4名	延べ7名	12名	19名
技術検査官	10.26~27	若手技術職員育成メインプログラ ム(第2回)	俱知安町ほか	未定	—	28名	—	28名
工務課・道路防災推 進官	4月~10月	道路構造物点検の合同立会	管内(トンネル・防災点検箇 所・付属物・橋梁)	25名程度	—	25名	0名	25名
技術管理課	11/2	寒地土木研究所 現地講習会	本部第1会議室	20名	30名	20名	35名	55名
工務課・道路防災推 進官	11/17,11/24, 11/29	道路防災エキスパート講座	小樽道路事務所 岩内道路事務所 俱 知安開発事務所	延べ30名程 度	延べ30名程 度	35名	34名	69名
施設整備課・防災対 策官	5/26,6/17 7/12~/13 8/26	災害対策用機械操作訓練	蘭越町尻別川 旧蘭越1号樋門	未定	未定	延べ24名	延べ92名	延べ116名
小樽港湾事務所	12/9	小樽港フィールドラニング (第1回)	小樽開建本部	30名	70名	22名	51名	73名
農業開発課	H29.1.下旬	農業部門技術研修会	小樽開建本部 第1会議室	未定	—			未定
築港課	H29.2	管内地域磯焼け意見交換会(大 規模磯焼け調査中間報告)	小樽開建本部	10名	30名			40名
小樽港湾事務所	2/21	小樽港フィールドラニング (第2回)	小樽開建本部	30名	70名			100名

8

若手技術職員育成メインプログラム(第1回)【技術検査官】

☆平成28年7月26日(火)～27日(水) 研修場所:岩内町

☆目的

当部職員が保持している技術を円滑に伝承し、若手技術職員の技術力を向上させる取り組みとして、若手技術職員育成プログラムを平成26年度から実施している。

☆対象者

研修員:H27年度新規採用、H28年度新規採用、OJT担当

◎参加者数:26名(講師・説明者・事務局含む)

【実施概要】

☆講話 久保田次長(河川・道路)

☆講義(座学)

- 小樽港の建設について
- 港湾事業と体験談
- 道路事業について
- 先輩の体験談(道路部門)
- 防災対策の概要
- 工事業務契約の流れ
- 情報化施工、CIM
- 初級トンネル講座

☆現場体験(岩内共和道路土砂仮置き場)

- 測量実習 排水縦断
- 側溝排水の丁張設置
 - ・丁張杭の設置
 - ・基準杭の水準測量
 - ・計画高の位置だし、丁張りの設置
 - ・水系張り

☆現場見学(忍路防災事業)

- 忍路トンネル 見学



受講状況



現場体験



現場見学

【成果、感想、反省、今後に向けて等】

◇現場説明、現場体験も評価が高かったことから、引き続きプログラムに取り込む。参加者側、主催者側双方がスキルアップとなる取り組みを目指し、継続実施を図る。

◇研修生の感想(主なもの)

- ・今後、監督員をしていく上でどのように測量を行うのか把握している必要があると思うので、測量実習は来年も行ってもらいたい。丁張りの設置もどのように行うのか知らなかったのが、実際に実習できて良かった。
- ・本研修で一番勉強になった科目は、測量実習である。測量はこれまでほとんど行ったことが無かったため、復習にも非常に良かった。
- ・現場見学として忍路防災(トンネル)を視察できたことは、これまで施工途中のトンネル工事を見学した経験が無かったため、非常に有意義であった。
- ・同じ開建でもなかなか他の部署の人と交流する機会がないため、交流することができて良かった。

9

若手技術職員育成メインプログラム(第2回)【技術検査官】

☆平成28年10月26日(水)～27日(木) 研修場所:倶知安町

☆目的

当部職員が保有している技術を円滑に伝承し、若手技術職員の技術力を向上させる取組として、『若手技術職員育成プログラム』を平成26年度から実施している。

☆対象者

研修員:H27年度新規採用、H28年度新規採用、OJT担当

◎参加者数:28名(講師・説明者・事務局含む)

【実施概要】

☆座学

- 農業事業について
- 河川事業(歴史含む)について
- 先輩の体験談
- 北海道の開発と後志管内の地域振興
- 現場調査におけるガイダンス
- 工事監督とKYK(危険予知訓練)
- 河川防災について

☆班別討議

- 現場安全点検について

☆現場見学等

- 流雪溝・電線共同溝見学
- eセコビュープラザ防災資機材備蓄倉庫見学
- 港の資料館見学

班別討議



現場見学



港の資料館見学
(説明は福田研修員)



【成果、感想、反省、今後に向けて等】

◇部門横断的な見学・体験が有意義で効果があるため、引き続きプログラムに取り組み内容の充実を図る。

◇研修生の感想(主なもの)

- ・「普段の業務では他の部門について学ぶ機会がないため、このような研修は有意義であると感じました。」
- ・「先輩の体験談では報告・連絡・相談、コミュニケーション、プレゼンテーション力、資格取得、地域を知ることなどが大切であると話され、どれも重要なことであると感じました。」

10